

+Town&Country SEVENSEAS

セブンスー+タウン&カントリー

4

April
2008
Number 235

LIVING IN
THE COUNTRY

自然に囲まれた、
もうひとつの自宅を手に入れる

リビング・イン・
ザ・カントリー



ファッション特集
つくりと素材を極めた
“贅沢仕立て”の奥義

Special Fashion Issue 1



パリ中心地にあるギャラリーためながは、さまざまな画廊が軒を連ねるパリの多くの画廊のなかでも最大級の規模を誇る。／左：展示スペースは1階と地下のふたつに分かれており、1階には油彩の作品が約80点展示された。／右：道行く人も目をとめる大きなウィンドウ。

パリの人々を魅了する ルオーの存在感



宗教、人種、世代を超える普遍的なメッセージを作品にこめたルオー。観る人の心にもその思いが届いているようだ。



The spiritual beauty of Georges Rouault

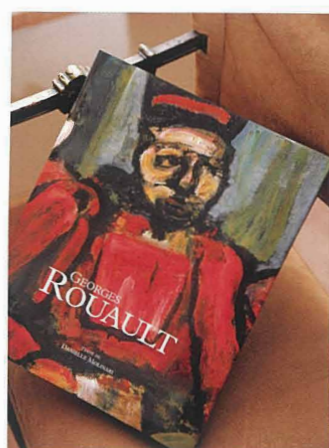
ギャラリーためなが パリ ジョルジュ・ルオー展開催

美と芸術への熱気が渦巻く

フランスの国民的画家として愛されているジョルジュ・ルオー。その貴重な作品を120点以上も集めた大規模な展覧会がギャラリーためながパリで開催された。美しい色彩のなかにこめられた、人間の内面の美しさ。そのヴェルニサーージュは、ルオーの魅力に圧倒された一夜となった。

武田正彦=写真 栗野真理子=文
photographs by Masahiko Takeda text by Mariko Awano

ルオーが生まれたフランスでもその人気は不動だ。レセプション当日はあいにくストライキで交通機関が麻痺していたにもかかわらず、多くのゲストが訪れた。



上：ギャラリーためなが社長、為永清嗣氏（右）とルオー財団理事長ジャン・イヴ・ルオー氏。左：今回の展覧会に合わせて出版されたルオーの画集。右ページ本文中の画集は、1938年刊行『流れる星のサーカス』の版画集。

イヴ・ルオー氏は、「1992年に財団を設立し、ルオーの作品を管理してきましたが、今回の展覧会では、私たちもふだん見られない作品が一堂に会し、とても素晴らしいですね。2008年の日本でのルオー展にもとても期待していますよ。こんな企画を立ててくれたギャラリーためながに感謝しています」と、思い出のある作品を前に、感慨深げにたたずんでいる姿が印象的だった。

今回の展覧会は、幅広いルオー作品を観ることができるといえない貴重な機会。ルオーが大好きというファンが熱心に作品に見入っていた。パリでの展覧会は予定を超えて年末まで延長され、大好評のうちに幕を閉じた。

「ルオーの作品は、ためなががギャラリィを開いた1969年から扱っていて、ルオー財団とも親しく長いおつきあいをしています。2008年はルオー没後50年。今回はひとつの節目として、この展覧会を開きました」と語った。

また、ルオーの孫のひとりにあたるジャン・



フランスのルオーファンを魅了した充実の展示

2007年11月15日に、ギャラリーためながパリの「ジョルジュ・ルオー展」のヴェルニサーージュ（オープニングパーティー）が同画廊で開催された。この展覧会は、20世紀最大の宗教画家と称されるジョルジュ・ルオー（1871-1958）の大規模な展覧会として、パリのみならず美術界の大きな注目を集めた。同日はルオーのコレクターやファン、ギャラリー関係者が多数詰めかけ、ルオーの人気の高さをあらためて浮き彫りにした。

今回の展示は初期から晩年に至るまでの作品を網羅しており、絵画はなんと約80点、版画は40点と傑作が大集合。また、このうち約40点は販売されるということもあって、訪れる人の関心もひときわ高かったようだ。

パーティーでは、ジョルジュ・ルオー財団の理事長ジャン・イヴ・ルオー氏をはじめ、ルオー家の人々やルオーの作品を所有するコレクターたちの姿が見られ、とても華やいた雰囲気。パリでも有数の広さを誇る画廊内に、画が壁一面にちりばめられ、圧倒する美しさを放った。

こめられた深い愛と 移りゆく色彩の美

作品が物語る ルオーの成熟の歴史

ジョルジュ・ルオーの作品は、黒を含む色彩のコントラストが特徴的だ。ルオーを知る人も知らない人も、ひとたびその作品に触れると、なにかを訴えかける大きな魅力にとらわれる。今回の展覧会に合わせて出版された画集『ジョルジュ・ルオー』でテキストを執筆したダニエル・モリナリさんは、「ルオーの作品には、生涯追求しつづけたキリストやサーカス、女性などの主題があります。でも、その奥にはいつも人間の苦悩や愛、神の尊厳などスピリチュアルなものを感じるってきます。それがルオーの大きな魅力と言えるのではないのでしょうか」と語ってくれた。

ルオーの絵にはどれも、人間風景のなかに

も宗教的な要素があり、その美しく鮮烈な色彩とあいまって人々の心に響く。とくに後期の作品には、ルオーが到達した輝くような豊かな色彩が紡ぎ出され、珠玉の作品が多く含まれている。

また、版画作品にも必見の価値がある。展覧会に出品された初期の「ユビュ爺の再生」と「流れる星のサーカス」の版画集にあるようなのびやかに描かれた作品を経て、ルオーは色彩の可能性を確認し、その芸術の域を広げ、成熟を深めたのだ。

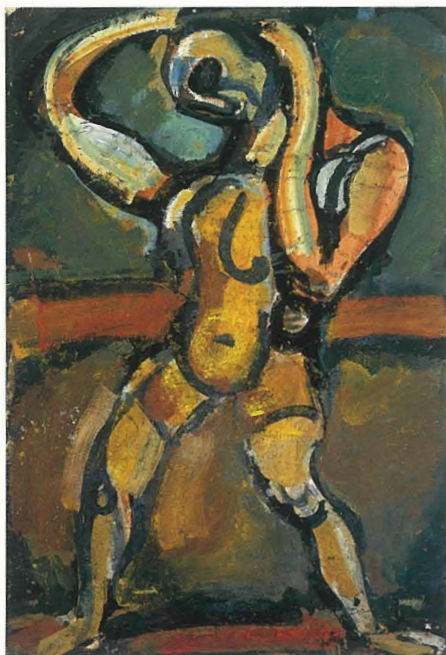
パリで成功を収めたルオー展は、今年日本（東京と大阪）でも展覧会が開催されるというビッグニュースがある。日本の両会場でもルオーの作品が前・後期あわせて70点以上も展示され、30点以上が購入可能というから、ぜひ訪れたい。



Nocturne d'automne
夕景・秋
1952年 75×100cm



Les Trois Juges
三人の裁判官
1929-39年 75×105.4cm



Acrobate VII
アクロバットVII
1913年 105×71.5cm

ジョルジュ・ルオー展

会期を前期、後期の2回に分けて作品を入れ替え、初期から後期の作品を公開。
前・後期あわせて70点以上もの絵画が一堂に会する。

ギャラリーためなが

会期：3月1日(土)～19日(水)、3月21日(金)～4月12日(土)
住所：東京都中央区銀座7-5-4
tel.03-3573-5368

ギャラリーためなが大阪

会期：3月30日(日)～4月19日(土)、4月20日(日)～5月11日(日)
住所：大阪府中央区城見1-4-1 ホテルニューオータニアーケード内
tel.06-6949-3434

後援：フランス大使館 協力：エールフランス航空